

dike) が 国内のあちこちに存在するようである。そして いろいろな立場から研究されていると聞く。しかしながら それらに対して火成岩石学的な研究が詳しくなされたという例を 寡聞にして私は知らない。恐らく地質単位として小規模なことや一般に変質していることのために これまであまり顧みられていないのだろう。

鹿浦越の岩脈群の研究結果は 岩脈として貫入したマグマの分化時の地質環境と花崗岩類の生成環境との間に 相関性が存在することを暗示している。各地の syn-plutonic dike と 基盤花崗岩との間に同様の関係が見いだされれば 花崗岩成因論に対する搦め手からのアプローチとして 岩脈の火成岩石学的・岩石化学的研究が脚光を浴びることになるかもしれない。

引用文献

- CAMICHAEL, I. S. E., TURNER, F. J. & VERHOOGEN, J. (1974): *Igneous Petrology*, McGraw-Hill p. 739.
 HELZ, R. T. (1976): Phase relations of basalts in their melting range at $PH_2O=5kb$. Part II. Melt compositions. *J. Petrology*, vol. 17, 139-193.
 平山 健 (1951): 香川県白鳥本町付近の所謂 スペツサルタイト及び文象斑岩について。地調報告, no. 141, p. 9.
 ISHIIHARA, S. (1977): The magnetite-series and ilmenite-series granitic rocks. *Mining Geol.*, vol. 27, 293-305.

- 河野義礼・岸田孝蔵 (1940): 香川県白鳥本町付近の岩脈群を成すスペツサルタイト岩及び文象斑岩に就て。岩鉱, vol. 23, 165-178.
 河野義礼・植田良夫 (1966): 本邦火成岩類の K-Adating (V) — 西南日本の花崗石類 —。岩鉱 vol. 56 191-211.
 小島丈児 (1978): 花崗岩地質学の問題。昭和53年三鉱学会 (於広島) 講演要旨集, 1-4.
 LEAK, B.E. (1978): Nomenclature of amphiboles. *Amer. Mineral.*, vol. 63, 1023-1052.
 都城秋穂・久城育夫 (1975): 岩石学 II. 岩石の性質と分類。共立出版 p. 171.
 OSBORN, E.F. (1959): Role of oxygen pressure in the crystallization and differentiation of basaltic magma. *Amer. J. Sci.*, vol. 257, 607-647.
 佐藤源郎 (1936): 7万5千分の1地質図幅「高松」および同説明書。p. 56 地質調査所。
 UJIKE, O. (1975): Petrogenetic significance of normative corundum in calc-alkaline volcanic rock series. *J. Japan. Assoc. Min. Pet. Econ. Geol.*, vol. 70, 85-92.
 氏家 治 (1978a): 香川県白鳥町付近の岩脈群の多様性。地調月報, vol. 29, 85-97.
 UJIKE, O. (1978b): Petrology of a composite dike with biotite granite porphyry and quartz diorite porphyry at Shiratori, Kagawa, Japan. *J. Japan. Assoc. Min. Pet. Econ. Geol.*, vol. 73, 167-175.
 UJIKE, O. & ONUKI, H. (1976): Phenocrystic hornblendes from Tertiary andesites and dacites, Kagawa Prefecture, Japan. *J. Japan. Assoc. Min. Pet. Econ. Geol.*, vol. 71, 389-399.

地質調査所の出版物

- ・地質調査所月報 第30巻 第8号
 MOTOJIMA, K. and HIRUKAWA, T.: Geochemistry of Some Iodine-rich Rocks and Brines from the Mobarra Gas field, 50 km Southeast of Tokyo.
 小村良二: 大阪府阪南町の瓦粘土の産状と性質
 中塚 正: コンピュータによる図形表示 (III) — 鳥瞰図 — (第139回研究発表会講演要旨)
 ・地質調査所月報 第30巻 第9号
 堀川義夫・津 宏治・小川克郎: 茨城県日立—千葉県鴨川地域の空中磁気異常と地質構造 第1報 調査データ処理法および解析結果
 ISHIIHARA, S.: Kappameter KT-3 and its Application for Some Volcanic Rocks in Japan.
 岸本文男訳: アジャリア構造単位と東ポントス構造単位の関係および地質発達型式に関する問題によせて
 ・地質調査所月報 第30巻 第10号
 横田節哉・大嶋和雄: 石狩湾堆積物の重金属の分布
 小川克郎・堀川義夫・津 宏治: 茨城県日立—千葉県鴨川地域の空中磁気異常と地質構造 第II報 磁気構造と地質構造
 (新着資料の紹介) (第140回研究発表会講演要旨)
 ・地質調査所月報 第30巻 第11号

- 藤井敬三・佐々木 実・後藤 進・曾我部正敏: 太平洋炭鉱における炭質の側方変化と炭層の層厚変化との関係について
 寺島 滋: 赤外吸収分析法による岩石 鉱石 堆積物中の全炭素 全硫黄 炭酸塩炭素 非炭酸塩炭素の定量
 MOTOJIMA, K., TAJIMA, E. and AKAIWA, H.: Preliminary Report on the Geochemistry of Iodine, Bromine, and Chlorine in the Surface Samples of Cenozoic Marine Sediments from the Southern Part of Okinawa Main Island, Southwest Japan.
 岸本文男 訳: 東南アジア陸部のメタロジェニー
 ・地質調査所月報 第30巻 第12号
 YAJIMA, J.: Neogene Mineralization of the Teine-Chitose district, West Hokkaido, Japan.
 柴田 賢・内海 茂・中川忠夫: K—Ar 年代測定結果—1 (第30巻 索引)
 ・5万分の1地質図幅・地域地質研究報告
 藤 沢 (東京—73) 浅 舞 (秋田—39)
 津 島 (京都—19) 酒 田 (秋田—55)
 江 住 (京都—106)
 ・20万分の1地質図幅 久 遠
 ・日本水理地質図 29 福島県福島盆地 (1:5万)
 ・海洋地質図 14 北海道周辺日本海及びオホーツク海域 広域海底地質図 (1:100万)